

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2671400261
法人名	株式会社 エバカラー
事業所名	グループホーム エバホーム
所在地	〒619-0212 京都府木津川市梅美台2-1-1 (電話) 0774-71-8337

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅湊町83-1 ひと・まち交流館京都		
訪問調査日	平成19年9月19日	評価確定日	平成19年12月7日

【情報提供票より】(平成19年7月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 1 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6.0 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100万 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	350 円	昼食 750 円
	夕食	600 円	おやつ 300 円

(4) 利用者の概要(7月18日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低 82 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	塩谷内科医院、公立山城病院、富田歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都府南部の奈良県に近い学研都市にあり、新興住宅と旧住宅の混在している地域である。ビルの2階と3階がグループホームであるが、「エバホーム」の表示とプランターの花などにより、殺風景なビルの外観を和らげている。内部は名画を掛けたり、琴やオルガンが置かれ、趣味の良いソファなど、生活文化の豊かさを感じさせる。開設以来4年半になるが、管理者、ケアマネジャー、常勤職員の交代はなく、「少人数だからこそできる快互」を掲げ、ほとんどが40代以上の職員がチームワーク良く業務を遂行している。食事には力を入れており、野菜がいっぱいで手づくりの和風献立が多いが、時には目先を変えてハンバーガーを食べることもあり、利用者のなよりの楽しみとなっている。家族の面会も多く、ホーム内は会話がさかんであり、利用者と職員は共に暮らす「共同生活者」を具現化している。管理者は認知症ケアに経験と力量をもっており、毎年の温泉旅行やターミナルケアの実施が実現している。今後はさらに地域密着型の事業所としての取り組みを企画している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>エバホームの表示と玄関周りの雰囲気づくり、理念をホーム内に明示すること、救急救命講習の受講、職員のストレス対策、町内会との交流等、前回の評価で指摘された点は適切に改善されている。市町村への働きかけによる共催事業の実施は取り組み中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に関しては全職員から意見を聴取し、まとめている。前回も含めて、評価を仕事の気づきに生かそうという積極的な姿勢がある。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>要綱が策定され、利用者、家族、町内会長、木津川市高齢福祉課長(または主幹)、地域包括支援センター職員、学識者がメンバーとなり、2カ月に1回会議が開催されている。メンバーからは好意的かつ積極的な意見が出されており、グループホームとして適切に対応している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年に2回の家族会、またほとんどの家族が頻繁な面会、介護計画の見直し時における家族カンファレンス等々、家族とのコミュニケーションの機会が多い。グループホームの運営に関して、家族からの苦情はなく、むしろ「何か、お手伝いしたい」などの意見がある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事や祭りには積極的に参加している。近くの幼稚園には訪問し、行事に参加させてもらっている。小学校の入学式や運動会等にも参列している。日常的に買い物に行くスーパーやコンビニには理解を得られており、利用者についての情報を得ている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「少人数だからこそできる快互(=介護)」を理念として掲げており、その意味は、介護は介護されるほうは当然として、介護するほうも快くなければならないということからきている。グループホームの意義を踏まえ、利用者にも家族にも職員にも非常にわかりやすい優れた独自の理念である。パンフレット、契約書等に明記されており、ホーム内にも掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念は職員がすべて身につけており、毎日の業務に具現化することができている。ホームの運営や介護の実際についても、管理者からの一方的な指示や指導ではなく、職員からの積極的な提案によりおこなわれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入しており、協力している。また隣町の町内会の行事や祭りにも招待されるので、参加している。市社協の作品展や祭りにも参加し、出品している。近くの幼稚園の行事にも招待され、参加している。小学校の入学式や運動会にも参列している。近くのスーパーには認識してもらっており、利用者が出かけると、知らせてもらえる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員に回覧し、意見を集約している。前2回の外部評価による指摘については、理念の明示、玄関周りの改善、町内会との交流、職員のストレス対策、救急法の受講等々、前回の評価により指摘された点の改善が進んでいる。評価受審は自分たちの仕事の気づきと反省になったと考えている。さらに高みをめざしては地域密着型サービスを推進していく考えをもっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱が作成され、メンバーは利用者、家族、町内会長、木津川市高齢福祉課長(あるいは主幹)、地域包括支援センター職員、学識者からなり、2カ月に1回開催され、議事録が残されている。それぞれのメンバーから積極的な意見が出ており、前回の意見に対して次回に必ず回答するなど、対応は適切である。		

京都府:グループホーム エバホーム

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との関係は大事にしており、コミュニケーションをはかっている。介護相談や地域住民への認知症の啓発、理解等をおこなう意思はあり、伝えているが、市町村との共催事業ははまだ行われていない。	○	優れたグループホームを運営しており、認知症への理解も深く、地域への啓発の意思もあるので、ぜひ、市町村に積極的に働きかけて、その一端でも実現させることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	A4版1枚の『エバホーム通信』を毎月発行しており、写真が豊富で利用者の様子がよくわかる。家族には請求書送付の際にこの便り、手書きの手紙、写真等を郵送している。金銭管理もレシートとともに送付している。職員異動も家族への手紙に書いている。利用者の状態変化は随時電話連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年に2回開催されており、家族同士の交流になっている。また面会も多く、2週間内にすべての家族と面談でき、土日などは大勢の家族がくる。面会のときには利用者の状況を詳細に伝える。苦情や意見としてはあがってこないが、運営推進会議などで家族は「運営にも協力したい」と積極的な意見をだしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来4年半、管理者、ケアマネジャー、常勤職員のいずれも異動はない。管理者としては、職員の上下関係を設けず、「同志」と考えていることが交代のない理由だという。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員対象の年度研修計画を作成しており、高齢者理解、認知症理解、感染症、回想法等が研修テーマとなっている。また接遇、三大介護、アクティビティなどは現場で研修をおこなっている。研修記録は資料とともに残されている。資格取得にも積極的に支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府グループホーム協議会に加入しており、そこでの研修には積極的に参加している。隣接しているグループホームフレンド平城山・山城や奈良県にある同法人のグループホームとは利用者も含めて交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ためし利用をしていただくことがあり、1週間の利用のうち、入居を決めた人もいます。利用開始後なるべく早くなじんでもらうために、同じ職員がずっとついており、情報を収集するとともに生活の継続を図っている。食事好きなものを提供するようにしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として認識しており、学ぶことが多い。発語のない人からあるとき「おはよう」という言葉を聞き、他の職員もその言葉を聞きたくて「おはよう」と何度も話しかけたことがあったという。ターミナルケアの後、亡くなった夫に「おめでとう。苦しまなくて良かったね」と言ったおくさんの言葉には、職員はみんな泣きながら感動した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申込用紙にフェイス記録が書かれ、家族構成や医療情報、使っていた介護サービス情報が蒐集されている。バックグラウンドアセスメント用紙は家族が記入しており、出身地、最終学歴、実家の家業、父母兄弟姉妹、職歴、結婚歴、夫の職業、子ども等が記録されている。昔のことでよく口にすること、よく出る人の名前、好きなことや好む服装等々、よく情報が蒐集されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員担当制をとっており、アセスメント資料により、担当職員とケアマネジャーが介護計画を作成し、家族カンファレンスにかけて同意を得たうえで、全職員が確認する。介護計画には必ず生活のなかの楽しみの項目を入れている。食欲のない利用者の家族から酢飯が好きだったことを聞き、介護計画に入れて成功した例がある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化の際と定期的には3カ月ごとに見直しをしている。見直しにあたっては、医師、看護師の意見を聴取するとともに、アセスメントをおこない、介護計画の項目ごとの評価を経たうえで、担当職員とケアマネジャーが他の職員の意見も取り入れて新しい介護計画を作成し、家族カンファレンスにかけて、最終決定としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診やかかりつけの理美容院への同行をしている。ショート利用は可能だが、まだ機会がない。家族が希望すれば食事を共にすることもでき、宿泊も可能である。内科医は月2回、歯科医は1回、看護師は週1回、訪問しており、医療連携はとれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医への同行は家族に依頼するが、家族の都合がつかないときは職員が同行している。いずれの場合も、サマリーによる医師との情報交換をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族が希望し、医師の判断を仰いだうえで、グループホームでターミナルケアをおこなっている。家族からは同意書をとっており、終末期には家族も協力している。職員も不安はあるものの、お世話してきた利用者の最期をしっかりとケアしようという一致した思いをもっている。職員は今まに感動的な経験をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規定を策定しており、職員からは誓約書をとっている。また利用者や家族からも同意書をとっている。日常のケアの場面では、トイレ誘導の声などに十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一応の日課はあるが、利用者の自由に過ごしてもらっている。夕食後に眠れないときなどに、補食もしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は和食を中心に高齢者の食べ慣れたものであり、野菜が毎食豊富に使われている。献立を予め決めることなく、利用者から声が出ると、ハンバーガーを食べてみたいという希望などにも臨機応変に応じている。キザミ食やトロミ食も1品ずつ分けて提供している。大きな食卓を囲んで利用者と職員が食事しており、声かけしながらの食事介助がなされ、にぎやかな会話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は週3回の入浴をしているが、希望すれば毎日の入浴にも応じている。マンツーマンの同性介助をしている。ときには菖蒲湯やゆず湯などもしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割は掃除、せんたくもの畳み、食器洗い、食材の買い物等、できることを支援している。楽しみは編み物(夫に帽子を編んだ人もいる)、合唱のリードをする人、興にのって歌いながら踊る人など、毎日の生活のなかでいろいろなことが楽しまれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にはホームのまわりの散歩や近くのスーパーに出かけるなどを支援している。車で近鉄駅の大型施設に出かけ、外食、喫茶、映画などを楽しむこともある。毎年旅行に取り組んでおり、昨年は有馬温泉に出かけている。車椅子の利用者を含めて全員参加が実現している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路からの門扉、玄関ドア、エレベーター等々、すべて鍵をかけていない。近くのスーパーからは利用者が来ているという連絡がもらえる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者もふくめて避難訓練を年2回おこなっており、建物全体として近隣との防災協定書が交わされている。ラジオ、電池、携帯毛布、100時間ろうそく、ガスコンロ、救急箱等の防災グッズと水、パック入りカレー、同スープ、同味噌汁、カップめん、ゼリー、缶詰、瓶詰等の食料の備蓄も完備しており、賞味期限についての毎月のチェックもおこなわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの利用者の毎日の食事摂取量と水分摂取量は記録されている。口から食べることの重要性を認識しており、食事を工夫している。水分補給も手作りゼリーの準備など、努力している。1カ月に1回くらいはカロリー値の計算と栄養バランスについて、栄養士に点検してもらうことが期待される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には表札としてきれいな色刷りの木製プレートをかけており、季節の花のプランターがおかれ、殺風景なビルの外観をやわらげている。2階と3階の踊り場の窓辺には観葉植物の鉢がおかれ、ソファからの外の見晴らしが快い。居間には座りやすいソファ、趣味の良い時計、琴やオルガンが置かれ、壁には名画がかかっている。利用者が粘土でつくり、きれいな色を塗ったふくろう、雛人形、サボテン等の飾りがほほえましい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の表札はさまざまな形のプレートに色を塗り、名前を書き、小さな花やうさぎなどをつけた手作りのものをかけている。居室内にはたんす、いす、テレビ等、利用者が使い慣れた家具や道具がもちこまれている。自分の描いた絵、パッチワーク、ぬいぐるみ、人形、家族の写真等も飾られている。三味線を大事にしている人もいる。		